

第1回圧送技術研究会 —コンクリート圧送技術の現状と課題—



今回5つの主題解説では最も長い40分が、示唆に富む報告となっている。また、近年高強度・高流動性コンの施工が増えている。そのことも踏まえて、総じて、圧送が良好である。

単位水量は単位水量が少ないと品質が低下するが、品質と施工性の両方を満足できるバランスのよい単位水量の設定値がある。

さらに、各種コンクリート（

コンクリートの品質は単位水量が少ないと品質が低下するが、品質と施工性の両方を満足できること）におけるポンプ圧送性確保の方策が述べられた。最後に、近年の単位水量が低めに抑えられる趨勢や関西の骨材事情を考えると圧送性確保が難しくなる。圧送性を確保するためには、設計者・生コン製造者・施工者・ポンプ圧送者が一体となって対応する必要がある。そして、今後各者は協力し

データを蓄積していく必要

がある。

（混和剤メーカー③阿合延明／

㈱ボーリス物産大阪支店）

（混和剤メーカー④吉見正／

（天王理事）・井ノ上義清（村

本建設機械統括所長）・二村誠一（大阪工業大学助教授）がパネ

ラーとなつた。会場から活発な質問が続いた。「ポンプ圧送業者の過重な労力を軽減するよう機械の開発は行われないのか」「関西の骨材事情の悪化に伴い、圧送性に影響は出ないので

圧化、静音化、高機能化が語られた。

（ゼネコン⑤岩清水隆／㈱中工務店大阪本店建築技術部）

今回5つの主題解説では最も長い40分が、示唆に富む報告となっている。また、近年高強度・高流動性コンの施工が増えている。そのことも踏まえて、総じて、圧送が良好である。

管理確保の上で好ましいとは言えないとする。（単位水量。こ

こでもコ

ンクリートの品質は単位水量が少ないと品質が低下するが、品質と施工性の両方を満足できること）におけるポンプ

圧送性確保の方策が述べられ

た。最後に、近年の単位水量が

低めに抑えられる趨勢や関西の

骨材事情を考えると圧送性確

保が難しくなる。圧送性を確保す

るためには、設計者・生コン製

造者・施工者・ポンプ圧送者が

一体となって対応する必要があ

る。そして、今後各者は協力し

データを蓄積していく必要

がある。

（混和剤メーカー③阿合延明／

（混和剤メーカー④吉見正／

（天王理事）・井ノ上義清（村

本建設機械統括所長）・二村誠一（大阪工業大学助教授）がパネ

ラーとなつた。会場から活発な質問が続いた。「ポンプ圧送業

者の過重な労力を軽減するよう機械の開発は行われないのか」「関西の骨材事情の悪化に伴い、圧送性に影響は出ないので



㈱澁沼組技術研究所
山崎 順二氏



全国コンクリート圧送事業団体連合会
橋本 精一氏



石川島建機械営業本部CS部部長
安田 稔氏



㈱ボーリス物産混合剤営業技術担当
阿合 延明氏



大阪生コンクリート圧送協同組合理事
吉見 正氏

－目次－

主旨説明	大阪生コンクリート圧送協同組合専務理事/増田幸伸 (コンクリート圧送技術の現状と課題)
I	全国コンクリート圧送事業団体連合会会長/橋本精一 (コンクリート圧送における問題点の提起)
II	日本建設機械工業会コンクリートポンプ部会/千々岩伸佐久 (コンクリートポンプにおける機械能力の現状)
III	㈱中工務店大阪本店建築技術部課長/岩清水隆 (コンクリートの圧送に対する建築工事におけるゼネコンの対応)
IV	大阪兵庫生コンクリート工業組合/外谷与生 (生コンクリートの最近の動向と圧送に関する課題)
V	㈱ボーリス物産大阪支店混合剤技術担当/阿合延明 (コンクリート圧送に関する混合剤の対応)

当日資料を実費にておわけします。

この研究会の求心点であり統括者の二村助教授から総括提言

（総括—二村助教授）

（二村助教授から総括提言）

（二村助教授から総括提言）

（二村助教授から総括提言）

（二村助教授から総括提言）

（二村助教授から総括提言）

（二村助教授から総括提言）

（二村助教授から総括提言）